

企業・官公庁・学校からみたお茶の水女子大学の教育と就職活動 調査結果

1. 調査の目的

本調査は、企業・官公庁・学校（以下、外部機関と表記）が、本学の学生および教育活動をどのように評価しているのかを把握し、その結果を教育全般、キャリア教育・キャリア支援の改善を図る資料とすることを目的とする。

なお本調査は、2015 年から隔年で実施されており、今回は 6 回目の調査である。

2. 調査の概要

調査時期、対象、方法については、以下のとおりである。

(1) 調査対象

卒業生および修了生が就職した企業・官公庁・学校等を主とし、直近 2 年間にキャリア支援行事に参加実績のある 289 機関。

(2) 調査方法

各機関に対し、回答依頼を委託先より郵送した。依頼書には、Web 回答画面の QR コードとアクセスコード（回答企業を判別するためのもの）を記載した。ただし、Web 回答が難しい企業・組織もあることを想定し、印刷した調査票も同封の上、郵送・Web のいずれでも回答可能であることを案内した。

(3) 調査内容

大学教育に求めること、入社・入職後に成果を上げるために必要だと考えること、新卒採用において重視する点、本学学生の評価、積極的に採用したい学生の専門分野など、自由記述を含み A4 8 ページであった。本年の調査より、コンピテンシーに関する項目は、すべて「お茶大コンピテンシー10」を基にした内容に刷新した。

(4) 実査

実査は以下のスケジュールの通り進めた。

- ・ 11 月 7 日（金） 委託先より調査票一式を郵便にて発送
- ・ 11 月 28 日（金） 委託先より礼状兼督促ハガキを発送
- ・ 12 月 1 日（月） 担当部署のメールアドレスが分かる機関にリマインドメール送信
- ・ 12 月 12 日（金） 一次締切
- ・ 12 月 19 日（金） 完全締切

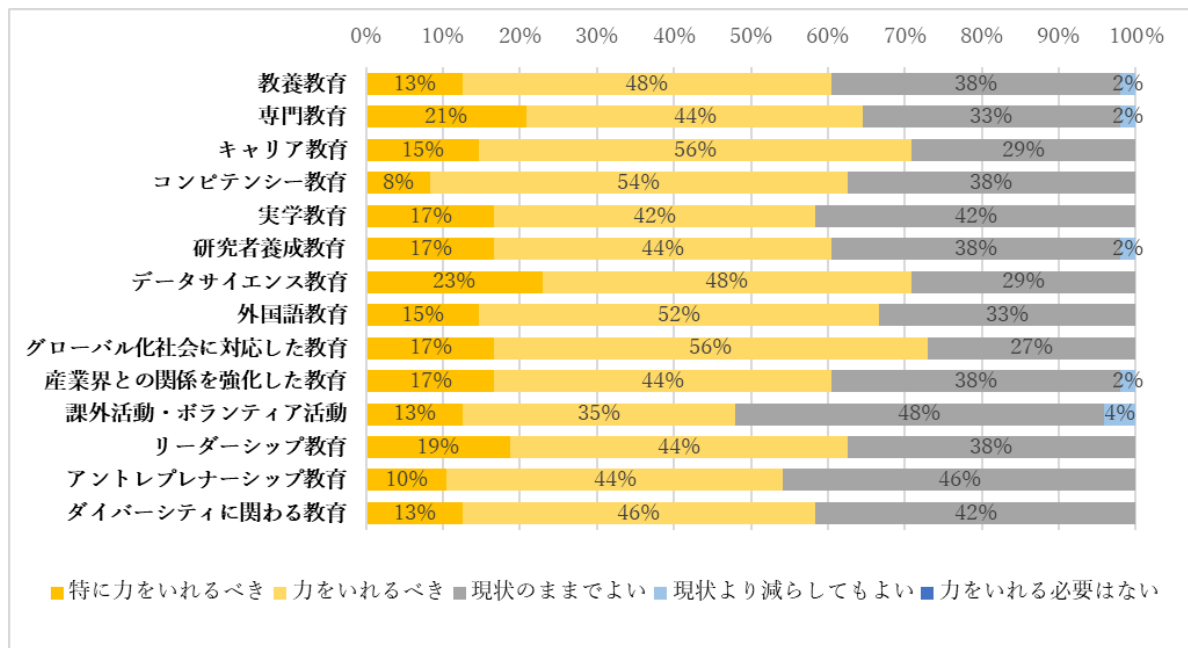
調査の結果、49 機関から回答を得た。うち、郵送回答が 4 件、Web 回答で 45 件であった。

(5) 分析データ

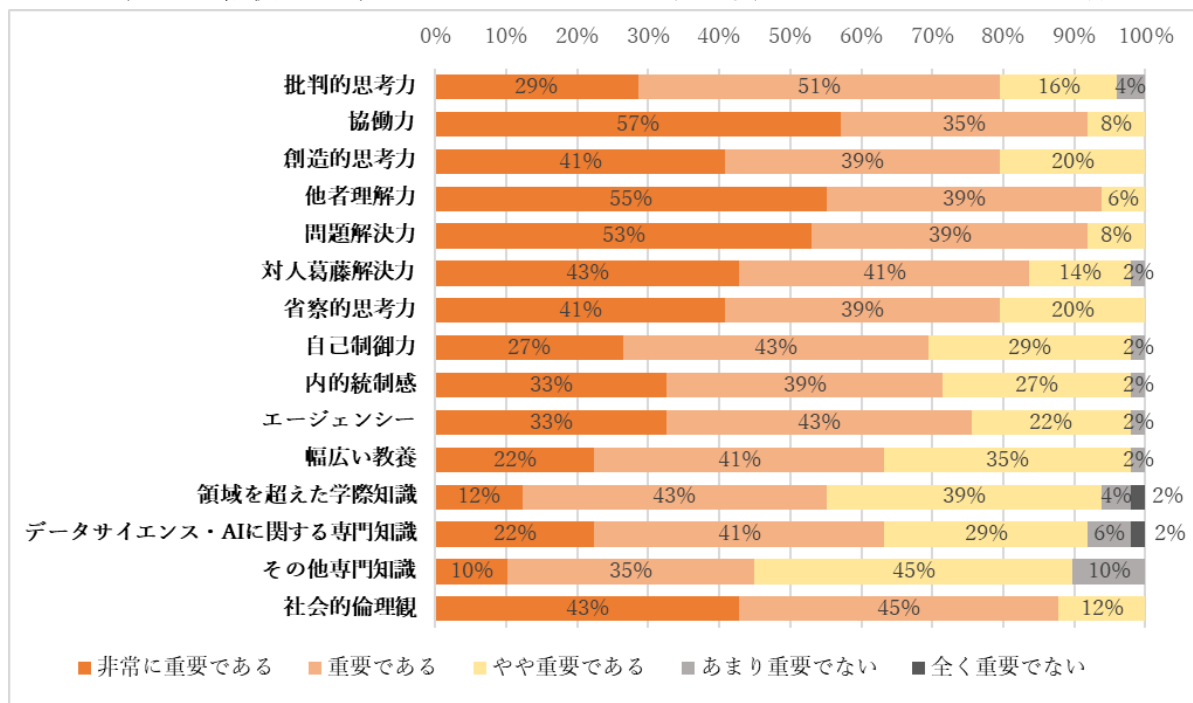
回答企業の従業員規模は、100 人未満 0%（0 社）、100～500 人未満 10.2%（5 社）、500～1000 人未満 8.2%（4 社）、1000 人以上 81.6%（40 社）と、大企業からの回答が多い。業種は製造業が最も多く、30.6%（15 社）であった。そのほか、情報通信業 20.4%（10 社）、金融業・保険業 16.3%（8 社）、公務 12.2%（6 機関）であった。

3. 調査結果

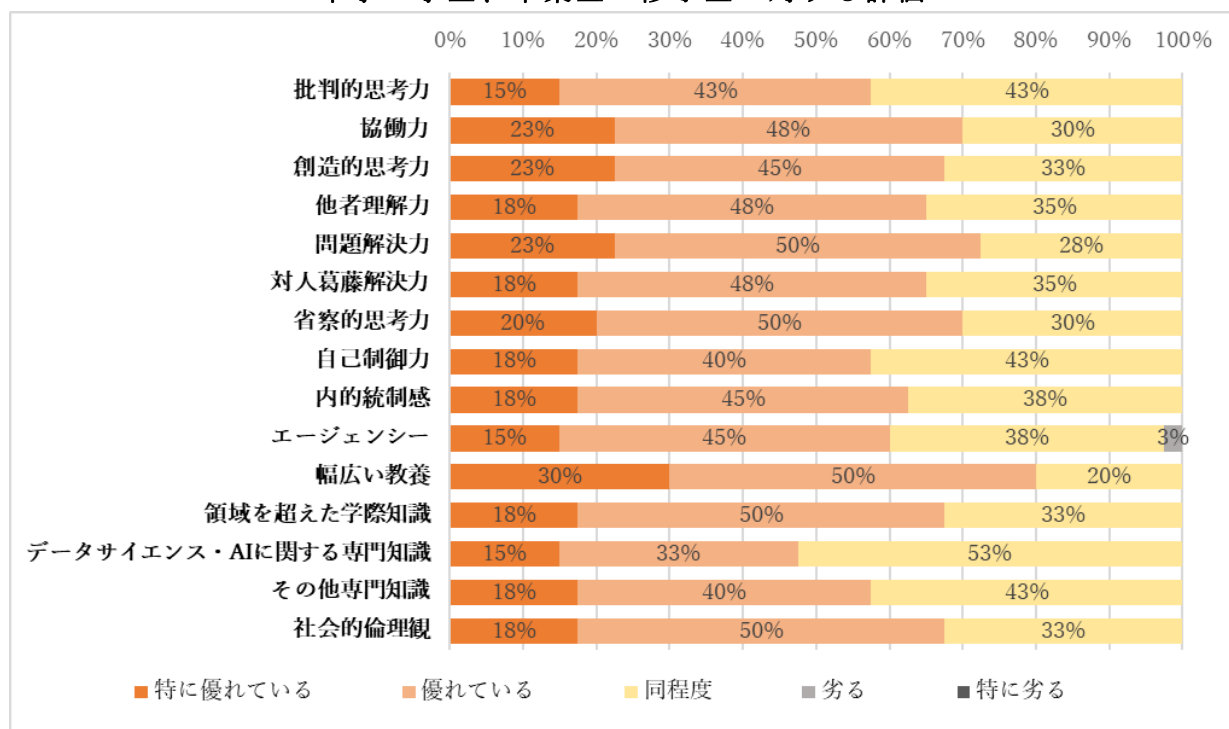
これからの大学の教育において、力を入れるべき教育



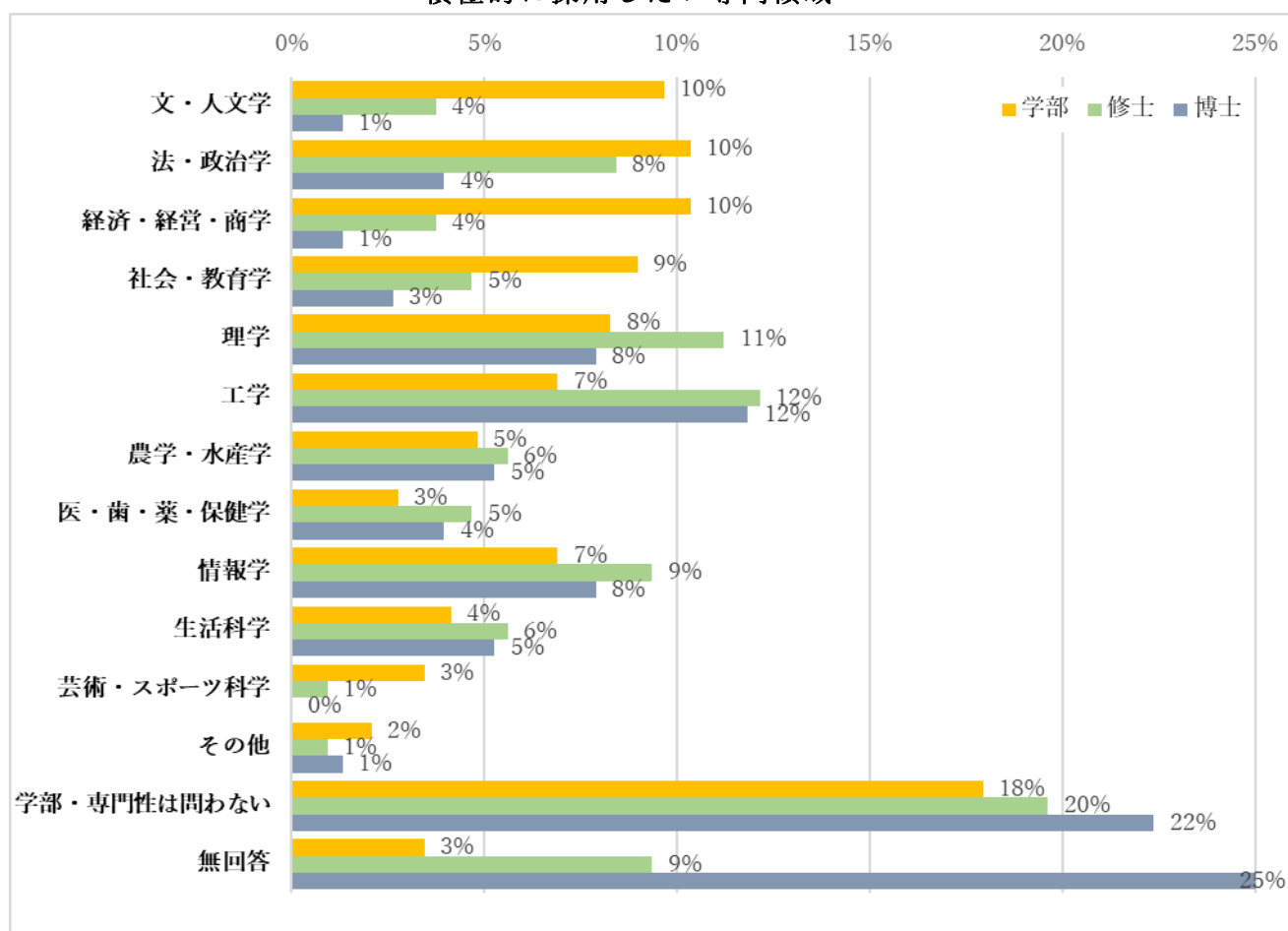
入社・入職後に成果を上げていくために、重要なコンピテンシー・知識



本学の学生、卒業生・修了生に対する評価



積極的に採用したい専門領域



最も積極的に採用したい学歴・専門領域の組み合わせ

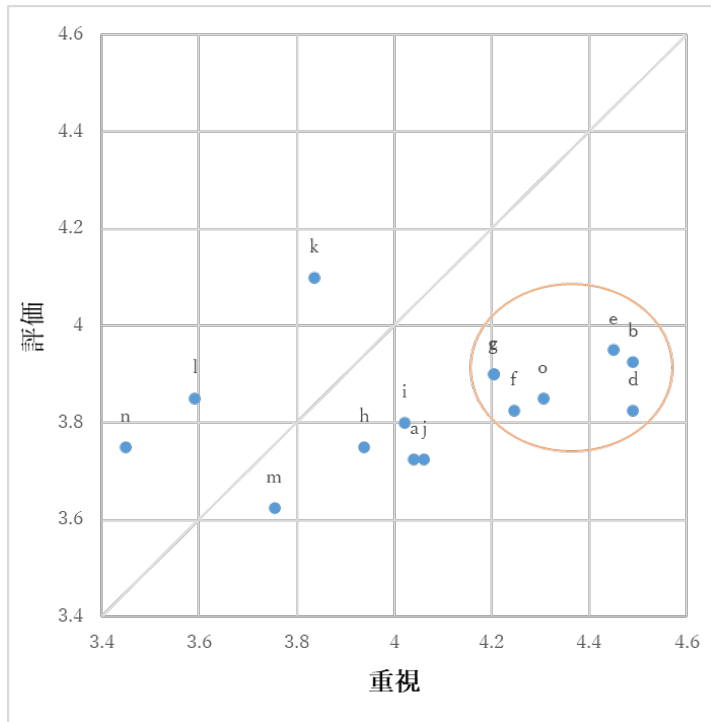
	学部卒	修士卒	博士卒	修士卒 以上	学歴は 不問	無回答
文・人文学	1	0	0	0	0	0
法・政治学	1	0	0	0	2	0
経済・経営・商学	2	0	0	0	1	0
社会・教育学	1	0	0	0	0	0
理学	0	0	0	1	0	0
工学	2	4	0	1	0	0
農学・水産学	1	1	0	0	0	0
医・歯・薬・保健学	0	0	0	0	0	0
情報学	0	0	0	1	4	0
生活科学	0	0	0	0	0	0
芸術・スポーツ科学	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0
学部・専門性は問わない	3	0	0	0	15	0

4. 各機関が入社・入職後に成果を上げていくために重視する点と、本学の学生の評価から見える課題

各機関が重要だと考えるコンピテンシーや知識と、それらの項目に対する本学の学生の評価に対する回答をもとに、各機関の回答平均値をプロットした図を示す。X軸が重要度、Y軸が本学学生に対する評価である。

重要度も評価も高い項目が右上のゾーンに、重要度も評価も相対的に低めの項目が左下のゾーンにプロットされている。オレンジで囲われた項目は、各機関が重視しているコンピテンシーや知識でありながら、本学学生の評価が特に優れているとは評価されていない項目群である。これらは、b. 協働力、d. 他者理解力、e. 問題解決力、f. 対人葛藤解決力、g. 省察的思考力、o. 社会的倫理観である。これらの項目を伸ばしていくことによって、社会に求められる人材の育成につながると考えられる。特に、前回実施時には、社会的倫理観は重要度が高い項目には含まれていなかったが、AIの普及により、今後一層求められるようになるものと考えられる。全体的に、各機関は知識よりもコンピテンシーを重視している傾向が強く、大学教育を通じて、こうしたコンピテンシー育成に力を入れることの重要性を裏付ける結果であった。

本学学生に対する評価と入社後に重視する項目



a. 批判的思考力

b. 協働力

c. 創造的思考力

d. 他者理解力

e. 問題解決力

f. 対人葛藤解決力

g. 省察的思考力

h. 自己制御力

i. 内的統制感

j. エージェント

k. 幅広い教養

l. 領域を超えた学際知識

m. データサイエンス・AIに関する専門知識

n. その他専門知識

o. 社会的倫理観